自由討議（１）

教育委員会行政視察について

１　視察日程

令和５年（２０２３年）２月１３日（月）～１５日（水）　２泊３日

２　視察先と主なテーマ

（１）不登校支援（SCHOOL“S”他）・・・・・広島県教育委員会
（２）フリースクール・・・・・・・・・広島県福山市（校内：きらりルーム、市立：かがやき）
（３）小中一貫校及び地域学校協働本部・・・広島県廿日市市【大野学園
（大野西小学校・大野中学校)】
（４）個人探究活動・・・・・・・・・・・・・広島県廿日市市（宮園小学校）

３　視察者

教育長　　遠藤　洋路
教育委員　出川　聖尚子、小屋松　徹彦、西山　忠男、苫野　一徳、澤　栄美
（随行：総合支援課長　須佐美　徹）

４　視察内容

（１）広島県教育委員会【不登校児童生徒への支援の充実に向けて】

〈日時〉２月１３日（月）１３：３０～１６：００
〈概要説明〉令和３年度に不登校支援センターを設置し、広島県内の公立学校の不登校児童生徒への学習支援等による不登校の未然防止及び不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実を図る。



◎不登校支援センターについて　※令和３年度設置
①構成等
・センター長　１人
・指導主事　１２人（スクールエス常駐３人を含む）
・スクールソーシャルワーカースーパーバイザー　１人

②主な取組
○不登校 SSR（スペシャルサポートルーム）推進校への支援
・県内３３校（小学校７校、中学校１５校）設置多い学校は２０人程度
・不登校児童生徒の安心・安全な居場所、個々の状況に応じて成長できる場所
・SSR 加配教師を中心に対応、センターより指導主事が訪問及び支援（R4 は新設校に週１日訪問、他は月１日訪問して加配教師と一緒に支援）
○教育支援センター（SHOOL“S”）による支援　※令和４年度より開始
・担当者は７人（常時３人、学校訪問担当者４人）
・教育支援センターに通所した児童生徒を支援、又はオンラインで支援

・オンラインによる支援については、昨年度 SSR 推進校のみであったが、本年度は県内であればどこでも参加できる。



・通所している児童生徒は１月の平均
（小学生約１６人、中学生９人）
２時間かけて毎日通所する児童もいる。
・本年度より設置したスタジオからオンラインによる支援を始めた。　学習アプリ Qubena や room-K を活用している。
オンライン利用している児童生徒の１月の平均（小学生約１０人、中学生約７人）
（昨年度より熊本市のフレンドリーオンラインともコラボ配信を実施）

○広島 LEARN プロジェクトの実施
・東京大学先端科学技術研究センターと連携し、地域と時間を超えたワクワクする学びを提供。興味・関心が共有できる仲間との出会い、専門家の話を聞くことができる。
・令和元年より開始（令和元年２回、令和２年３回、令和３年４回、令和４年６回実施）

○フリースクール等民間団体との連携体制の構築
・フリースクール等と学校、委員会での情報交換会の実施
・６２団体が参加

○個別最適な学び探求セミナーの実施
・令和２年度「発達障害」の理解を深める（２回実施）
・令和３年度「発達障害」への理解を踏まえ、実際の手立てについて考える（３回実施）
・令和４年度「好きなこと」を追求することをテーマにしたセミナー（５回実施）

（２）福山市立城東中学校【校内フリースクール「きらりルーム」の取組】

〈日時〉２月１４日（火）　９：３０～１１：００

〈概要説明〉２０１８年度より不登校児童生徒の支援を目的とした福山市校内フリースクール「きらりルーム」を開設した。城東中学校では「チャレンジルーム」と「ふれあいルーム」の部屋を生徒が選択して利用している。その日の状態によって教室で授業を受けたり、オンラインで授業に参加したりしている。



◎「きらりルーム（ふれあいルーム、チャレンジルーム）」

①目標　○自分を知る
○困ったとき、いやな気持ちになったときは、まわりの人に相談する。

②主な取組
○家庭と学校をつなぐ不登校、長期欠席傾向の生徒が安心して過ごす場所
○教室とふれあいルームをつなぎ、自己有用感を育む取組を行う
・対人関係の修復、練習　　・自分自身をみつめる

・社会、集団のルールを学ぶ　・学力の補充（担任、教科担任と連携）



③担当者（２人体制）

・「ふれあいルーム」担任（常駐）　１人

・「ふれあいルーム」担当教師　　１人

④支援方法

○「ふれあいルーム」

・ふれあいルーム担任が常駐して支援。

・円形のテーブルの利用等、教室とは違った雰囲気でコミュニケーションがとりやすい配置にしている。

○「チャレンジルーム」

・パーテーションを用いた机等、集中して学習しやすい配置にしている。

・教師は常駐ではなく、巡回して支援する。

○学習方法

・Google Meet を利用し教室の授業にオンラインで参加する。

・Qubena の利用やプリント学習を行う。

・経済産業省「未来の教室」実証事業 spaceQ によるオンラインライブ授業の活用

○利用状況等

・常時活用している生徒は８人程度。教室にいる生徒との関係性を保てるように給食やプリントを届けてもらう。

・人間関係のトラブルで教室に入れない生徒が多い。短期間の利用で教室にもどる生徒もいる。

○チーム学校による個別最適化された生徒支援実証

・見取りと手立てを共有するプラットフォームの活用と連携した支援

・心理面と認知特性のアセスメントによる効果的な支援

（３）福山市教育相談センター【福山市フリースクール“かがやき”の取組】

〈日時〉２月１４日（火）　１３：００～１５：００

〈概要説明〉２０１９年度より集団での学びが難しかったり不登校傾向にあったりする児童生徒が自分らしく学べる場してこれまでの適応指導教室を改名し福山市立フリースクール“かがやき”として環境整備を行った。現在、中央・西部・東部と３カ所に設置され、市内在住の小中学生を受け入れている。



◎「“福山市フリースクール”かがやき”中央」

①構成等

・所長　１人　　・教育相談員１人

・学習活動推進員　　３人　　・相談員　２人

②支援方法

〇一人一人に応じた学びを、児童生徒と一緒に考えたり計画したりする。

・個別のサポート計画の作成及び運用　　・かがやき職員と学校教職員との連携

〇１人１台端末を活用し、習得度に応じた学習や教室とのつながりを深める。

・EdTech 教材やオンライン授業、Web 会議システムの活用

〇多様な活動を設定し、興味・関心、知的好奇心を醸成する。

・スポーツ（ボルダリング体験、ダンス等）　　・自然体験（植物栽培　等）

・芸術（陶芸体験、楽器演奏　等）　　・IT（ドローン体験、プログラミング等）



③利用状況等

〇１月の利用者は３所合わせて一日平均５６人であり、４月の平均３８人より増加している。

特に中央の利用が多く１月は平均３３人であった。

〇年度ごとの利用者数の推移

・2019 年度　　６５人（小学校　２５人　中学校　　４０人）

・2020 年度　１２１人（小学校　５８人　中学校　　６３人）前年度＋５６人

・2021 年度　２０５人（小学校　９４人　中学校　１１１人）前年度＋８４人

（４）大野学園（大野西小学校・大野中学校）【小中一貫教育、地域学校協働活動の取組】

〈日時〉２月１５日（水）　１０：００～１２：００

〈概要説明〉施設一体型の小中一貫教育校として、２０１５年度より「大野学園」として小中一貫教育が開始された。小学校と中学校のすべての職員が一体となって９年間の児童生徒の指導と支援を行う。また、地域学校協働活動も推進されており、学校と地域が連携しながら教育活動の充実を図っている。



◎大野学園（小中一貫教育）について

①学校規模等（令和４年度）

〇廿日市市立大野西小学校

・学級数　３２学級

［通常２０学級　特別支援１２学級（通級２学級を含む）］

・児童数　７３０人　　・職員数　７２人（校長は中学校と兼務、学級支援員４人、特別支援教育支援員１５人、TT３人、専科４人、ALT 等含む）

〇廿日市市立大野中学校

・学級数　１５学級（通常１２学級　特別支援３学級）

・児童数　３２９人　　・職員数　４６人（校長は小学校と兼務、非常勤講師５人、子どもつながり支援員４人、部活動指導員３人、ALT 等含む）

②小中一貫教育の取組

〇学びをつなげる（学習意欲や学力の向上を図る）

・小中合同研修会　　・小中全職員による授業改善のユニット研修

・小中双方向の TT や出前授業　　・中学校３年生対象の面接指導に小学校教師の参加

〇生活をつなげる（生活指導上の諸問題の解決を図る）

・学習規律の統一化　　・小中合わせた学習規律の実施

・児童生徒の頑張りを見える化（きらりさんの木の掲示、べにまんさあくカードの掲示）

〇ふれあいでつなげる（豊かな人間性や社会性を育成する）

・リトルティーチャー（中学３年に小学校全クラスでの授業）　・合同避難訓練

・児童会と生徒会の連携（花植え、キャッチフレーズ作成）　・合同挨拶運動

〇地域でつなげる（「開かれた学校づくり」を推進する）

・小学校の読み聞かせ

・学習支援（音読、家庭科、生活科、英語検定対策）

・月ごとに全校へ地域行事の掲示



③地域学校協働活動の取組（令和３年度）

〇学習・体験支援

（小学校）

・生活科（まち探検２回）　・読み聞かせ（８回）　・昔遊び（１回）

（中学校）

・「志」発表面接　支援（２日）

〇生活・安全支援　・小学校新１年生の下校引率

〇情報発信支援　・未来カレンダー発行（令和３年は発行休止）

〇地域交流活動　・通学合宿（令和３年は実施なし）

〇放課後子ども教室　・放課後はつかいち寺子屋塾（水曜日）

（５）廿日市市立宮園小学校【個人探究活動の取組】

〈日時〉２月１５日（水）　１３：３０～１５：３０

〈概要説明〉自立した学び手の育成に向けた取組として、自由進度学習及び個人探究学習が実践されている。自由進度学習は毎学期１単元（２０～２５時間程度）実施されており、個人探究学習は年間２回（２５時間程度）実施されている。



◎自由進度学習について

①基本的な考え方

〇多様な選択肢を提供する

〇自己決定場面を増やす

〇学びの主体は子どもたちという意識を持つ

②学習計画表の工夫（課題の改善）

〇自由進度学習

初年度（令和２年度）

・全員が教科書中心にまとめたり、問題を解いたりする。

・計算ドリル、AI ドリル教材、プリントを自己選択し、たくさんの問題を解く。

⇓

２年目（令和３年度）

・教科書コース、プリントコースと学習方法を選択

プリントは順序も選択、学習コーナーの設置（例：粘土を使って〇〇ｋｇを作れ！等）

〇複数教科同時進行（算数、理科）

・算数、理科それぞれの学習計画表をもとに、見通しをもって算数、理科の進め方を自己調整しながら時間割に教科を選択し記入していく。「重さ」の単元等では合科的な取り扱いとして、一つの学習計画表を作成。



③学習環境の工夫

〇学習の見通し

・単元のゴールとなる課題を掲示し、常に意識できるようにする。

〇学習コーナー

・課題解決のために繰り返して実験するなど、興味・関心を高める課題を複数設置。

（例：てこを使ってできるだけ小さい力でおもりをもちあげろ！）

・複数の教科書から学習コーナーに使えるものを選ぶこともある。

・教室以外の移動教室や廊下等で学習する等、自分にあった学び場を選択して行う。

・低学年、高学年の教師チームで学習コーナーの準備等を能動的に行う。

④個に応じた支援

・ヒントカード（ロイロノート）の利用　※カラーで見やすく、対象の移動等が可能。

・学び振り返りシートの活用　　※進捗状況や理解度等を記入

⑤成果

〇児童の感想

・自分から進んで学習に取り組めた　８９％

・分かりやすかった　８４％

・こんな授業を続けたい　９３％

〇教師の感想

（指導や支援について）

・適切な「個への支援」ができた。　　・児童の学びを把握できた。

（児童の変容について）

・援助希求ができるようになった。

・本気で学びに向かう姿勢が見えてきた。

・環境を整えることで、自ら進んで学びを進め、深めていけるようになった。

◎個人探究学習について

①基本的な考え方（３年生以上）

〇総合的な学習の時間に位置付け、自分で設定した課題について解決していく。

〇PDCA サイクルで学習を進める。

②児童の振り返り

〇自分のペースで進められるからよい。

〇自分のやりたいことができて楽しかった。

〇失敗してもまたチャレンジしようと思える。

〇探究課題を見つけるまでが難しかったが、課題が決まってしまえば、自分一人でもどんどん進められた。

③保護者の感想

〇自分で決めた目標に向かって頑張っていた。

〇知らないことを知る喜びが味わえてよかった。

〇計画表を見ながらきちんと進めていた。

〇家の中が紙飛行機だらけになるくらい、いろいろ試していた。

〇個人探究学習にとても苦戦しているようだったが、タブレットで調べながら何度も挑戦していた。